

松本オフィス通信

学生奮戦記

自分を高める4年間

社会福祉学科4年 中澤陽子



私が4年間で頑張ったり努力したと思えることは、自分の欠点の克服です。私には人見知りやあがり症という悩みがありました。人前に立つことが苦手で、立つときは膝が震えました。

から入学式までは、友達ができるか、一人暮らしはできるかと不安だったのを今でも覚えています。でも、あの時悩んだのは一体何だったのか、それぐらい早くに悩みが解決しました。それは、入学式ですぐに友達ができたからです。思いついて自分から積極的に話しかけていきました。新入生は誰しも同じ不安を抱えています。みな友達を作りたいと思って大学の正門をくぐります。もし私と同じ悩みを抱えている方がいたら安心してください。それから大学生活、私は人前に立つことも積極的に行いました。サークル活動やゼミ発表会、実習報告会など、高校

目次:

学生奮戦記	1
大学祭	1
アート&クラフト展	2
あなたの町の高校訪問	3
私の仕事	3
福祉の現場から	3
学生の活動	4
インフォメーション	4

大学祭

リンゴ&とん汁
長野県人会の大学祭
保育所実習で会長不在の中、県人会は今年も大学祭(11月7日、8日)で宮田村のリンゴの販売ととん汁販売に挑戦。両日とも昼過ぎには早々に完売状態。毎年固定ファンがいて、新鮮なリンゴ

を待っている人が増えてきたとのこと。今年は大候が不順で、リンゴの収穫量は近年まれにみる不作でした。それでも重量感があり、つややかに光るリンゴは、信州の秋の豊さを思わせるものでした。



大学生になって感じること

保健福祉学科1年 大坪誠也

大学に入って早8ヶ月が経ちました。今まで頑張ったこと・失敗したこと・感じたことを書きたいと思っています。

最初に頑張っていること。俺の場合はサークルと勉強とバイトですかね。サークルは手話とバドミントンで特に手話に力を入れています。勉強とバイトも力を入れていて全てをバランスよくこなしています。偏りなくこなすことは難しいけれど、出てしまおうとすごい生活リズムになる気がします。やりたい事には挑戦してみよう。それが自分の将来へ関係してく



るかもしれない。旅先で恋がしたいとかでもOKです。でも、俺は残念なこと。恋の方はお休みさせてもらっています(笑)。恋がしたい(アハハ)。

ハ。とにかく目標を持って一日一日を過ごしてください。次に失敗してください。それは、入学してすぐにバイトを始めたことですね。まずは大学生活に慣れることが大事です。自炊や洗濯・掃除など全てを一人でやることになりました。俺の周りにはなかなか大学生活に馴染めないとかホームシックになる人もいました。

最後に、一番感じたのは、支えてくれる人への感謝の気持ちです。俺には弟がいますが高校の時は毎日のように喧嘩していました。親にも受験勉強でピリピリして、つい反抗することもありました。でも、時が経つにつれて、弟や親への気持ちの変化に気付きました。家族がいたから、今は愛知で一人でもやっていける。何を言っても家族や周りの人のおかげで今の自分がいる。今すぐに何か恩返しができるかといえはできません。だから、今の感謝の気持ちだけは忘れないようにしようと思ひ、毎日過ごしています。職に就いてから少しずつ、支えてくれた人に感謝の気持ちを返していきたいですね。

(諏訪二葉高校出身)

(長野西高校出身)

障害者施設のアート&クラフト展を開催



2009年10月3日(土)、4日(日)、松本駅東西自由通路を会場に「障害者施設のアート&クラフト展」が開催されました。主催は松本圏域の障害者施設を中心とした13施設からなる実行委員会(委員長知的障害者施設「コムハウス」施設長の金澤洋一さん)。

作品は水彩画、版画、鉛筆画、ペン画、版画、墨絵、書、パッチワークのタペストリー、さをり織り暖簾、卵殻アート、手工芸、写真、ロールアートなど170点余。

障害者アートについては県下で様々な機会に取り組まれています。今回は出展された作品と作者紹介のほか、施設の紹介や利用者の方の日常的な「仕事」など、鑑賞にあたっての背景説明を重視したアート展カATALOGが用意され、アート展ホストには地域活動支援センター「てくてく」の利用者の竹下さんのスケッチが採用されました。

「絵はがき」や「タイル」に製品化された作品もあり、原画と絵はがき、タイルが並べて鑑賞でき、タペストリーの下で足拭きマット(靴下用の布のリサイクル製品)が売られている美術展も珍しい?試みでした。各作品の展示場所、障害者の作家や保護者あるいは指導員の方たちが作品の解説や施設の紹介を行うなど、「作家」、家族、支援者が一体となった取組み全てが、社会福祉施設で日常取り組まれている表現活動の豊さと可能性、人間の発達の無限性を表したものでした。また、アートやクラフトの活動は、障害者の働く力の形成にも繋がっていることを示しました。

あるマスコミ関係者の方は「施設の職員の話聞き、作品を見ているうちに涙が出てきた」と感動を語られていました。また松本駅の改札口前という場所も幸いし、アート&クラフト展来場者は8000人近くと推計されますが、展示会場のあちこちで、作品を前にして、各施設の関係者と市民の交流が活発に行われました。

ご来場いただいた市民の方々の感想を紹介します。

○駅の一角という中で、このようなたくさん作品が飾ってあり、正直驚きました。素晴らしい、カメラではありませんが、携帯電話で撮らせていただきました。これからもよかったですら続けてください。頑張ってください。

○精神障害者の方の作品がとても素晴らしい。自分も障害者なので、もっと多くの人に見せてはどうでしょうか。(塩尻市・40代男性)

○作品がよい。特に気に入った絵が数点あり、これらがポストカードとかになっていければ買いたかった。(松本市・20代男性)

○実際に絵を描いているご本人と話せて良かったです。作品をいつも楽しみにしているので、次回も楽しみます。(松本市・20代女性)

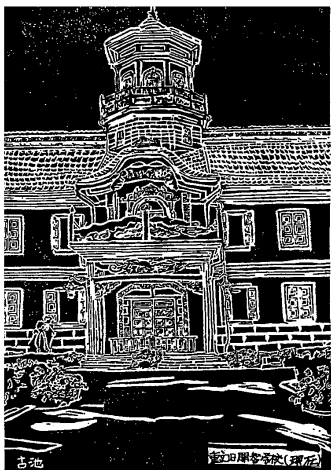
【後援団体】

- 松本市／信濃毎日新聞社／市民タイムス／SBC信越放送／NBS長野放送／TSBテレビ信州／abn長野朝日放送／株式会社テレビ松本ケーブルビジョン／FM長野／松本平タウン情報／塩尻市身体障害者福祉協会

(日本福祉大学松本オフィスは、このアート展事務局を担当しました。)

※なおアート展の出品作品は、松本オフィスのホームページで公開しています。

<http://www.n-fukushi.ac.jp/block/matsumoto/index.html>



就労支援センターホープ
古池さんの版画作品

特別参加・羽柴さんのインタビュー

色鉛筆のすてきな植物画、昆虫画の絵はがきを出品された羽柴太甫さんのお母さんにインタビュー。



羽柴太甫さん

Q. 小さい時から絵を描かっていたのですか。

A. いえ、19歳のとき、当時第二コムハウスでは花の苗や鉢植えの作業を行っていて、販売宣伝用の絵を指導員の方がおもしろいな、って思ってください、それから描き始めて5年くらい。

Q. おもしろいって?

A. 鉢植えは、苗床から根っここと植え替えるのですが、この子の絵は、鉢の中の根っこまで描いてあって、「あ、この子は土の中まで見えて、みんなに見せたいんだ」と思いました。

Q. 羽柴さんが好きなテーマは?

A. 人物です。スケートの荒川さんやタレントなども。私も1枚描いてもらいました。好きな人しか描かないので、描いてもらえなかった人もあります。私は草花が好きで、「クロクハ、これを描いて」って頼みますが、難しい時もあります。また同じ題材で何枚も、というわけにはいきません。

Q. 松本駅アート展での出品のご感想は?

A. これまでも「個展」をしたことがありますが、普段障害者の絵を見る機会のない人も含めて、あんなにたくさんの方に見てもらったのは初めてでした。上手下手ではなくて障害をもった子の生き方としての絵をこれからも多くの人に見て欲しいです。



絵はがきを販売する羽柴さん



オオオナモミとヒガンバナの絵はがき

あなたの町の高校訪問！

駒ヶ根工業高校

コマファイブ動員！インフルエンザを倒せ！

10月11日、駒ヶ根市安楽寺の子育て供養の縁日。参道わきの駐車場には小さい子どもとお父さんお母さんがぎっしり。その数はおよそ三百と五十人。みんなが待っているのは「コマファイブ」。歴代「コマレンジャー」に加えて、今年デビューした、駒ヶ根工業高校情報科の生徒たちだ。先輩たちは学校祭でうけたことに気を良くして、とうとう学校外にまで活動の輪を広げ、保育園・幼稚園から小学校まで交通安全キャンペーンに活躍し、果てはスキー場（ハブンス園原）のオープニングイベントに参加するなど、地域の元気を代表する存在になってしまった。地域貢献によって市長表彰も受けた。今回は、地元商店街から誘われ登場したのだ。相手は、ウィルスを使って地球侵略をたくらむインフルエンザ。これに5人が力を合わせて立ち向かうストーリーだが、途中、形勢不利になったところで、子どもたちの声援とコマレンジャーの応援で息を吹き返す。

小道具は全部手作り、煙も火花も出てなかなか迫力がある。工業の生徒たちは実に手早いと顧問の西村先生は生徒の活躍ぶりに目を見張る。また会場の隅では、機械科の生徒たちが薪を使った「石焼き芋機」(?)を製作し、石焼き芋の販売を行っている。「溶接の実習を兼ねて製作したのです」と担当の島崎先生は語り、なかなかの出来栄。機械科だけでなく、建築や土木の生徒たちは校内のフェンスや通路も直すという、注目すべき生徒たちだ。

さて、会場ではフィナーレが近づき、最後のアナウンスが響いてきた。インフルエンザに負けないためには、手洗いをしっかりとしよう。子どもたちも大きな声で繰り返す。そして最後のアナウンスだ。

「コマファイブは今日も地球の平和と駒ヶ根の未来のために戦う！」



戦うコマファイブ

私の仕事 「ストレンクス視点で！」 ～ 卒業生から ～

松本圏域障害者相談支援センター Wish 相談支援専門員 東條知子



所属しているのは「ハートライオンまつもと」という、主に精神障害者の生活の場や日中の活動の場などの運営を行っているNPO法人です。政権交代で話題になって「障害者自立支援法」では、障害者の相談支援が市町村の事業として位置づけられており、この「相談支援」の仕事を市町村が相談支援事業所（この場合「ハートライオンまつもと」）に委託し、現在は障害者相談支援センターがその業務を行っています。

「障害のある方の相談支援」とは、その方（当事者）の「こんな暮らしをしたいな」「こんなことをやってみたいんだ」「将来はこうなりたいんだ」という思いに沿い、一緒に考え、一緒に行動し、また支援のチームを作ったり、必要なら皆の課題として社会資源づくりもしていくことです。

実際には、まずはお話を聞き出すことからスタートです。お話を聞く場所も、Wishだけでなく、ご自宅だったり、近くの公民館やファミレスの場合もあります。その方が話しやすい所が第一です。ポイントは「本人中心」ということです。もともと人に関わることが好きな私ですが、この「相談支援」も色々な方と関わることでできます。しかも、ストレンクス視点で「障害があるOさん」と言うのではなく、その人らしさや様々な可能性をもったOさんという捉えかたです。人に関わる時、出来ないところばかりに目を向けると全然楽しくないし、その人のことを嫌いになってしまうそうです。でもストレンクス視点ですと、楽しい、夢や希望は広がるし、元気は出るし、人が好きになれるんですね。でもその一方で、これでいいのか・もっときちんと向き合わなくては・勉強不足だ・忙しいを言い訳にしているな...と悩みだらけです。もっと脳の中が若返り活性化されないかしらと、ため息の日々でもあります。

Wishの同僚や、お手伝いさせていただいている当事者の皆さんの優しさが、私を（この歳にして）成長させてくださっているのだと感じながら、仕事に頑張っています。

～施設とラーメン?～ 福祉の現場から ～くりのみ園訪問記～

10月31日、小布施市の知的障害者施設「くりのみ園」の園庭は、「限定特製鶏がらラーメン」を求める人、卵や米から手作りシヤム、漬物を求める数百人の人でうままりました。「障害者の自立と社会参加」を求め、とくに「農業従事者、農業後継者を育てる」ことを掲げたくりのみ園の実践は、全国的にもあまり例がない試みでしたが、農業には近所の農家の方たちが数多く参加され、障害者と一緒に飯をつくり、種まきから水やり、日常の手入れなど、親身になって農業技術の継承に力を注いでくれました。



(大盛況のラーメン店)

教えてもらったことを丁寧に作業で返していく障害者たち。彼らを見守る農家の方たち。この一つの成果が、施設で放し飼いの鳥が産む精卵「おぶせのためこ」です。犀北館ホテルの厨房や栗栗子の小布施堂、生協などでの実績をつくってききましたが、今年は、一段とパフォーマンスアップ。この鶏を使って特製ソーセイジづくりに取り組み、さらに地元の精肉店と長野市内を中心とするこだわりのラーメン屋さん協力して、なんと特製ラーメンの試作品まで作ったのです。限定200食！

「田園福祉」っていつても、誰も首をひねっていただけ、誰だって美味しいものを安心して食べたいんだもの。根っここのところで障害者が生活を支えているっていうのかな、なんか社会に支えられているというより、社会と地域を支えているという小布施の給食センターにこの野菜を入れさせてもらって、障害者が地域の子どものための「食」を支える柱の一つになっていくんです。嬉しいですね。」と語る施設長の島津さんです。

障害者の就労をめぐって、一方で「は厳しい現実があり、政策・制度の充実が求められています。小布施には、施設と住民、自治体が連携し合って地域を支えるという、新しい風が吹き始めています。」



玉子 M412 450円

地域とともに

松本市今井での農業体験
経済学部4年 望月麻未



夏休みの後半、私の人生では初めて農業作業、農業研修を体験しました。場所は長野県松本市今井の果樹園。「失敗を怖

なさい。間違えたらやり方を教えるから。」と励まされていたおかげで、自ら考えてやることを大切に、作業をすることができました。

また、自分達が収穫したリンゴを道の駅で直接販売する機会があり、販売方法の提案・実践や消費者との交流など多くの問題を考える機会にも恵まれました。原田ゼミで地域観光や地域活性化について勉強し、地域における「観光農業」について提案したことがありましたが、実際に農家の方々のお話や意見を聞く機会を得て、農家の方々との農業・農業を通じての地域発展への想いや私たち大学生の柔らかな発想への期待等を知ることができ、嬉しい反面、今までの自分の研究の甘さも感じました。

5日間という短い期間でしたが、自分でできることを考え実行でき、多くの人の関わり、楽しさを感じ、農業以外にも様々なことを学べたと思います。この研修で得たことを大事にし、今後の学生生活や研究に活かそうと思っています。



留学生 宮田村で「友好のリンゴ」を収穫

樹オーナー契約会

11月22日、宮田村の国際協会から本学留学生に贈られたリンゴの木を収穫祭が行われ、美浜キャンパスから中国、韓国の留学生15人が参加。ほとんどの留学生がリンゴ



の収穫体験が初めてで、園主の清水さんから栽培状況の説明を受けた後、収穫作業を行いました。農業に関心を持つ留学生からは、収穫の後、来年に向けた接ぎ木など早春の活動から体験したい、農業の使用は？など様々な希望や意見が出されました。留学生が日本の秋を農園で過ごすのは初めて。盛んに記念写真を撮り、用意したバッグに思い出とリンゴをつめて村を後にしました。



経済・加茂ゼミナール 高遠のPR認知度調査

経済学部加茂ゼミでは夏の高遠の調査に続いて、11月の大学の祭では高遠町高遠町の物産の紹介、観光パンフレットの配布とともに、町の認知度調査を行いました。学内のゼミ農園(?)で栽培したサツマイモで作った大学イモと名物高遠饅頭を謝礼としたもので、二日間で70件余の回答がありました。12月にゼミの合同研究発表会で調査報告が行われます。



加藤学長 宮田村ワイン祭りに参加

12月6日、村のワイン「柴輝」の販売を記念してワイン祭りが開かれ、加藤学長が参加しました。栽培農家の方たちが丹精込めた山ブドウを原料に、本坊酒造が醸造したものを。会場では本坊酒造、商工会長、役場の関係者、卒業生の天野村議など多くの皆さんと懇談。またこれに先立って教育委員会を訪問し、挨拶することにも、村民会館の民俗学の向山雅重氏の資料を見学しました。



(右が加藤学長)

インフォメーション

◆入学試験のご案内

【前期日程】

○一般入試
郵送出願期間

1月5日～28日消印有効

窓口出願期間 1月29日・30日

試験日 2月3日、4日、5日

合格発表 2月15日

○センター試験利用

郵送出願期間

1月5日～29日消印有効

窓口出願期間

1月30日・2月1日

合格発表 2月15日

【後期日程】

○一般入試・センター試験利用
郵送出願期間

2月15日～3月3日消印有効

窓口出願期間 3月4日のみ

試験日(一般入試) 3月9日

合格発表 3月17日

※一般入学試験、大学入試センター試験利用入学試験では、インターネットによる出願ができません。詳細は大学HPで。
<http://www.n-fukushi.ac.jp/nyusi/index.htm>

◆通信教育部入学相談会のお知らせ

日時/場所

・1月30日(土) 14～16時

・日本福祉大学松本オフィス

